

大切な歯を守るために今はじめよう!

—6月4日～10日は歯の衛生週間です—

1. 歯肉炎

歯ぐきは赤く腫れるけれど、骨はとけていない。



2. 軽度の歯周炎

歯ぐきから血が出る。
歯石がついてくる。
骨もとけてくる。



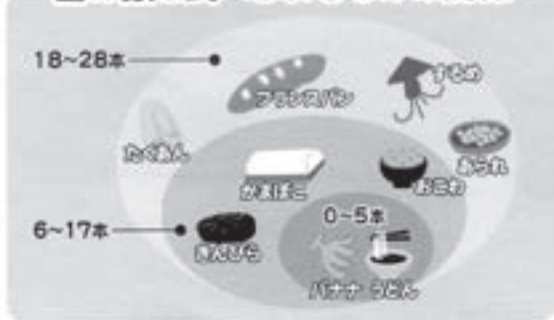
3. 重度の歯周炎

歯がぐらぐらして
ものが噛めなくなる。
歯が抜けてしまう。



歯が少なくなると食べられるものも限られてしまいます。

歯の数と食べられるものの関係



歯周病が全身に及ぼす影響



誰でもかかる歯周病

歯周病は、歯周病原菌の感染により歯を支えている歯肉や歯槽骨といった歯周組織が炎症を起し破壊され、末期には歯が抜けてしまう怖い病気です。歯周病は日本人の80%以上がかかっている、虫歯とほぼ同率で歯を抜かなくてはならなくなる原因疾患のひとつです。しかし、これほどの人がかかっている疾患でありながら、い

まだに予防知識が浸透しておらず、また痛みなどの自覚症状があまりないので放置され、気づいたときには歯が抜ける寸前だったというケースも珍しくありません。歯の衛生週間をきっかけに、歯周病の正しい知識を身につけて、歯周病を予防していきましょう。

歯周病の原因は?

歯みがきを怠ると、歯の周りに目では見えない薄いネバネバした膜がつくられます。この膜が食べかすと一緒に歯の表面に吸着します。これが歯周病の原因と言われているプラークです。プラークは口の中で細菌の活動などによりザラザラした歯石に変わります。この歯石が大きくなり、歯肉と歯肉の間の組織を破壊して歯周ポケットと呼ばれる深い溝をつくります。そうなるとさまざまな症状があらわれて、ついには歯を抜かなくてはなりません。

歯周病は全身の病気?

近年、歯周病は口の中だけでなく、さまざまな全身の病気とも深くかかわっていることが明らかになってきました。歯周病の原因菌が血液中に入り、全身に影響を及ぼす可能性があります。心筋梗塞や脳梗塞の原因である血栓を形成して病気のリスクを高めたり、糖尿病を悪化させる要因になるといわれています。口の中をきれいにし、歯周病を治療・予防することは、さまざまな病気の予防にもつながります。